

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表： 令和 4年 2月 10日

事業所名

放課後等デイサービス ジョイ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		音に敏感な利用者に対応できる個室がある。	十分な活動スペースがある。
	2	職員の配置数は適切である	5			配置基準を満たしている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5			完全にバリアフリーではないが、トイレ介助を行う十分なスペースが無い為、今後の課題とする。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5		月に一度スタッフ間で会議を開き、情報を共有できるように内容を残している。	実施しているが、今後一人一人の意識の改善が必要。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			保護者からの意見、意向を職員間で周知し、都度話し合いながら改善策を見出している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			ウェブサイトにて公開しているが、今後途中入社した職員への周知を徹底していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5		今後、第三者による外部評価を行っていくことを検討していく必要がある。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		公の研修に参加した職員が、社内研修にて情報共有を行っている。	職員の経験や知識が違うため、それぞれに合った研修の機会を設けていく必要がある。
適切 な支 援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5		適切な時期にアセスメントを行い、保護者や利用者のニーズに沿った計画書を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			アセスメントツールを応用し、状況把握に努めている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		担当者を中心に複数の職員で立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		個々の特性に配慮しながら、職員間で話し合いを行っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5		個々の課題に応じた活動を設定支援をしている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5		集団活動ではここの合同レクを行い、個別活動では自己選択もできるような配慮している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		必ず打ち合わせは行うようにし、役割が固定化しないよう話し合いを行っている。	話し合いに参加できなかった職員への周知を徹底していく必要がある。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		支援記録等を書きながら、その日の振り返りをし、気付いた点の共有を行っている。	打ち合わせ時間が長引く傾向にあるため、時間を区切って行うようにする。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		複数の職員で記録を取っている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5		一人一人の発達や状況を見ながら計画の見直しを行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	5		利用者と保護者のニーズを踏まえ、基本活動の全項目を行っている。	今後も固定化しない活動を提供していきたい。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			支援に対する目的意識の向上の為、管理者に加え、職員も参加していきたい。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5		保護者からの情報共有をもとに学校と連携しながら行っている。	下校時間等の変更があった際、保護者以外からの連携手段が無い為、より密に学校との連携を行っていく必要がある。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5			現在対象児がいないが、今後利用があった際には体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5			保護者や相談支援員からの情報が主になっているため、今後の課題とする。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5		相談支援専門員への情報提供を行い、必要に応じて就労移行会議に参加している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3		専門機関との連携が十分ではないため、今後見学等検討していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	2	公園等に外出し、他児童との交流を持つ機会を設けている。	
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	3	2		現在行っていないため、今後の課題とする。
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		主に送迎時に情報共有を行っているが、対面できないご家庭へは必要に応じて連絡ツールを用いて行っている。	ご家庭によって、共通理解が難しいケースもあるため、今後新たな方法を模索していく。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	3		今後支援が行えるよう事業所内での研修等 行っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			契約時に行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		送迎時等に各職員が対応しているが、偏った支援にならないよう努めている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4		コロナの影響で開催できていないが、夏祭り、保護者参観日の開催を検討している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5		職員間での連携ツールを用いて、迅速に情報共有している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		ウェブサイトと紙ベース等を使い分けて情報を発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	5		鍵のかかる場所で保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		情報伝達のためのツールを使い分けている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4		夏祭り等の行事に地域住民を招待したいが、 コロナのため自粛中。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5			ウェブサイトに情報を公開し、保護者に周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		視覚教材を用いて訓練へのスムーズな導入を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		複数の職員が研修に参加し、社内研修につなげている。	虐待チェックリストで月に一回セルフチェックを行い、虐待防止への意識を高めていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	2		現在対象児童はいないが、今後対象児童がいた場合には、十分に保護者への説明を行い、同意を得るようにする。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5		契約時保護者に確認し、緊急時の対応を職員間で周知している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		全職員で情報共有し、防止策を考え再発防止に努めている。	